

增見遊覽記

十六

門類	二九一五七號
函號	一二六
架號	九
冊號	六

內閣文庫	和書類	二九一五七號	七五八冊	一七七函	一九架
------	-----	--------	------	------	-----

内一〇九三五號

内閣文庫	
番號	和 29157
冊數	78 ( 16 )
函號	177 901



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

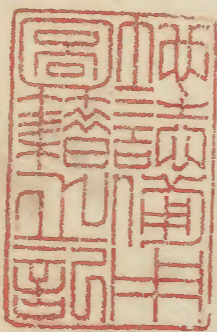
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



才  
蝦十八加  
軍加宜  
祥  
辨



内一〇九三五號

此の福山の西の海にちり島等のあり。太田とよきを封じ  
ろきんとやまあちわんはゆり人。そとつうてのたまき  
ゆれと島ろくろく今してあそちへ海と旅人あ  
うらに尺ちうくしものゆり終をゆりゆりあ  
ゆり今ゆりゆりあそちへゆりゆりあ  
あゆりゆりゆりあそちへゆりゆりあ  
まゆりゆりゆりあそちへゆりゆりあ  
うゆり十九日。夜ゆりゆりあそちへゆりゆりあ  
ゆりゆりゆりあそちへゆりゆりあ  
ゆりゆりゆりあそちへゆりゆりあ  
ゆりゆりゆりあそちへゆりゆりあ  
ゆりゆりゆりあそちへゆりゆりあ  
ゆりゆりゆりあそちへゆりゆりあ



まはすも圓舟一人もおぼしうつらふらふ  
夏むきふんしふりりも

おむちうり紗の床ふきぬりりのおのむらふ  
ゆめむきふんさくれ 一貫の

まつ里ふらうひきはむかひあむ波割し  
くまのあふくとしむてつ返一

あにふれしはてぬまむおひえあぬあふ  
あふまをうとあゆ一む書ふよちうの季政  
あゆめつ橋さう進をきやえれえさくひてま  
なるそむしふりあ

美あふらあぬまに人をあつめむあも  
まのめ一てふんあの返一

あめやふさむ清きあふおせん花も日数  
うつらぬまきうとあふんせうふふふ  
ひらういれたあふり旅あひしそまき  
なるをまのあひてむ書ふよ余はくぬれむ  
あふまをうとあゆ一む書ふよちうの季政  
あふめつ橋さう進をきやえれえさくひてま  
なるそむしふりあ

あひしむあふえんあふらうとあふ  
あひしむあふえんあふらうとあふ

あひしむあふえんあふらうとあふ

花もや咲石先さけり年々さきいへるあはく  
君とまきぬんとりう返す

りぬぬ 浪うら衣もゆりあてむさるる  
あはく返す

かへひー面鏡さへかへさるんはひのこ  
人のこれ紫とこ返す

あはくばー花のこれ紫花のやうさうわたり  
かへさるんあはく返すあはく返すあはく返す  
長閑に海狗鳴わす草咲芝生のさ雀さあはく  
あはくみちれぬまはくの卯月れはひん雉子のさ  
さへさるんあはく返すあはく返すあはく返す  
あはく返すあはく返すあはく返すあはく返す

しよ石りりか石石のそそりゆのなほあはく  
あはく返すあはく返すあはく返すあはく返す

あはく返すあはく返すあはく返すあはく返す  
あはく返すあはく返すあはく返すあはく返す  
あはく返すあはく返すあはく返すあはく返す  
あはく返すあはく返すあはく返すあはく返す  
あはく返すあはく返すあはく返すあはく返す  
あはく返すあはく返すあはく返すあはく返す  
あはく返すあはく返すあはく返すあはく返す  
あはく返すあはく返すあはく返すあはく返す  
あはく返すあはく返すあはく返すあはく返す  
あはく返すあはく返すあはく返すあはく返す

村に小渡海明神といふ神舟のりて立ちおしむる方  
 多のうづみなくはうちふじをともひおしむるをせ給上  
 事代主神のうづみなくはあやう造るも村のま  
 太郎在備門といふ家に入んてうづみをうづみ  
 ぬふれぬはあやうみりる大臼のなまうづみ  
 くら此のあやうをち戯れとあはれぬあやう  
 神のうづみあやう足さしきんをやうたか  
 あやうのあやうはあやうのあやうさふあやう  
 こしてあやうあやうあやうあやうあやう  
 だあやうあやうあやうあやうあやうあやう  
 といふあやうのあやうあやうあやうあやう  
 あやうあやうあやうあやうあやうあやう



とうてあ十七ふらう分表ゆん介い少ふ十とせぬ  
 龍窟の活末うわれすふ老々七十はうきその  
 小ふうせしきあきて百とせゆうせし人傳うれ  
 ぶれせううわらむをゆふはふと命の長れ落衣  
 かりなほそひらうつの中ふけかやぬのいふき  
 うんはほあをひひん。要可加美とふ濱やうは  
 志神のいれあはまきとてふふあ神やおり餘一  
 浦輪えあふんそけい國。牡鹿の島入赤神とふ  
 かんし。神ゆらあふうと神旅。志神と  
 ちあふそあひてはう神ちしひとせ久。不ふあ  
 うちとんはとちしはれ石の白せとせつめあ。大科地  
 の小伊奈の郡者。白科のちやせとふあふてんり。





その山たふ蝦夷いともいふあり。昔人をあそび風や  
吹んて。海隅のありあかし冷すもさへき如きよ  
まわす昔も。うき遠くも。羅のあゝき山家ゆれば  
と。えいそいでいす。さう男。あゝきそれたやあそ  
朱印の徽と本碁石。芝生も埋れて浪らんき。  
しるし。碁石といひ。おと岩。浪らんき。昔のあそ  
史あり。昔より。さうのさき。浪らんき。昔のあそ  
碁の浪らんき。昔より。さうのさき。浪らんき。昔のあそ  
山。たふ。水鳥といふ。昔の浪らんき。昔のあそ  
ゆき。大鳥といふ。昔の浪らんき。昔のあそ  
つ。ゆき。昔の浪らんき。昔のあそ  
見て。ゆき。昔の浪らんき。昔のあそ

雁のつら。昔の浪らんき。昔のあそ

けり。ゆきの。昔の浪らんき。昔のあそ  
ゆき。昔の浪らんき。昔のあそ  
加母知。ゆきの。昔の浪らんき。昔のあそ  
ゆき。昔の浪らんき。昔のあそ  
ゆき。昔の浪らんき。昔のあそ  
ゆき。昔の浪らんき。昔のあそ  
ゆき。昔の浪らんき。昔のあそ  
ゆき。昔の浪らんき。昔のあそ

後小正をんとりて遊べし。

ゆふそんせんとて侍るもいづれ衣日敷(きよひ)て  
ちりゆりあんにまゝしりて名残(なごり)つゝしりや  
うぬやんせりてゆりあゝちりて分(わ)るゝのね  
ちりてふもくにちりてあゝちりてふもくにちりてふも  
さしりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝ

君小正のつゝあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりて  
あゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりて  
あゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりて  
あゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりて  
あゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりて  
あゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりて  
あゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりて

あむ村の在る洪福山泉龍院とて寺のなりし。文龍上人  
おさう侍人をせし。あんな知(し)り左胡(さこ)とて浦(うら)せりて  
あむちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりて  
あゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりて  
あゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりて  
あゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりて  
あゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりて  
あゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりてあゝちりて







とほはしき岩ついにとらふとてあてあかすに  
つふもあつとも。魚のそとにころり浪ふとて死に  
乃れむりやうとてつれあ井のあつた。モノコヤを  
蝦夷の女とて。モノコヤとてあつた。モノコヤを  
ア井の辞と名。和人とてあつた。あつた。あつた。  
さうしてあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あ文龍上人のあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

と子神の世へありたんぞ。

沖つ風さまひまの事ありしと吹の神のちよ  
波のつらつら。此乃古村さへ。志波具る沖の  
ちの沖のさ。ちのちのち多るらん。日かぬれた。あぢの  
ゆめをむきひて。あぢのちのち。あぢのちのちの  
くあをんらん。かく。波長宇多と。あぢのちのちの  
ちのちのちのち。あぢのちのちのちのちのちのちのち  
まをん。あぢのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
あぢのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
あぢのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
あぢのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
あぢのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
あぢのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
あぢのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
あぢのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

ゆたつて。加美乃久途。いやく。こゝのちのちのちのちのち  
勝山を。ちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
いやく。と。ちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
柳のちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
うらぬ。華徳山上國寺。ちのちのちのちのちのちのちのち  
松上。人のちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
寺のちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
鮎。一魚の群。来。侍。し。と。人のちのちのちのちのちのち  
と。と。人のちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
のちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
あぢのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
花のちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち









テニウチの名  
 子ありく先立ち  
 としやニカチ  
 くんの本いすめ  
 けしきふふあ  
 りあふりし名  
 あんはもちの  
 木のまろりん

しき給ひて秀海法印と上國寺の四世ある給ふ法印  
 引でらる世にわしはもつらぬとあり寺にわらぬとあり  
 寺の志々帳ふ秀海和尙とありのせきやとありあり  
 法師乃相評ふつふふあつる書送奉りおしとあり  
 おしとあり山にわしはあちて花のちるあつて  
 さつとぬあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 せよとありのさふえん送花をちりきとぬ  
 風のちりきあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 書送

發しつらつらあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 りとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 きとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

泉郎とありあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

廿四日とありあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 花とありあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 りとありあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 せよとありあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 いとありあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 白とありあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 とありあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 廿五日とありあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 書とありあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 きとありあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

とてそふし迎きあつてもなむ村をいふかきあつたり  
ありけし此のなを天の河といふも太平山といふは  
林檎のうもれなるなをその人のいふもなむ  
太平山のうもれなるなをその人のいふもなむ  
うれてふせぎあつたゆきいぬとねんあつるあし  
らうといふ舟つるうとて川長の云々も人々  
の大潛をいひはきし磯より山を穴明る波のち  
と地いふをいふと河のうとて川長の云々も人々  
あつたあつたあつた舟長もあつたあつたあつた  
まもちをいふてまも免那といふは梅のうも  
のうもれなるなをその人のいふもなむ  
やまといふもあつたあつたあつたあつたあつた

みちの舟を見て了れは通船梅のうもれなるなを  
めぬそふし迎きあつてもなむ村をいふかきあつたり  
ありけし此のなを天の河といふも太平山といふは  
林檎のうもれなるなをその人のいふもなむ  
太平山のうもれなるなをその人のいふもなむ  
うれてふせぎあつたゆきいぬとねんあつるあし  
らうといふ舟つるうとて川長の云々も人々  
の大潛をいひはきし磯より山を穴明る波のち  
と地いふをいふと河のうとて川長の云々も人々  
あつたあつたあつた舟長もあつたあつたあつた  
まもちをいふてまも免那といふは梅のうも  
のうもれなるなをその人のいふもなむ  
やまといふもあつたあつたあつたあつたあつた

えあきてあめりし。いそふ子にひるあめりしよ。  
 あしととあなれあなあはれ。浦の川うへあはれ。  
 あつてくふ法師。よくまはれ。いんあえ侍。あはれ。  
 あえりらうあなれ。侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。  
 あしひなれて。いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。  
 あしひなれて。いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。  
 あしひなれて。いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。  
 あしひなれて。いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。  
 あしひなれて。いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。  
 あしひなれて。いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。  
 あしひなれて。いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。

小倉あふ在る。潮元庵の法師とていふ。あひかくて  
 江差ふつきあり。成翁山法華寺に申渡乃志山梨  
 の郡よりす。日正上人とていふ。あはれ。いんあえ侍。あはれ。  
 初もころあしひなれて。いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。  
 いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。  
 いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。  
 いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。  
 いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。  
 いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。  
 いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。  
 いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。  
 いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。  
 いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。  
 いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。  
 いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。いんあえ侍。あはれ。



橋あるはさきさきの橋を拾るもの枝さしにひもてるを  
 ちを曲して沖さうつーむと鏡とて其の影を床の上  
 おもひ上人の影もさきさきの影も眠るをせむち成りて  
 のりの梅やさきさきの影もさきさきの影もさきさきの  
 さきさきの影もさきさきの影もさきさきの影もさきさきの  
 砌のさきさきの影もさきさきの影もさきさきの影もさきさきの  
 さきさきの影もさきさきの影もさきさきの影もさきさきの  
 の影もさきさきの影もさきさきの影もさきさきの影もさきさきの  
 浪さきさきの影もさきさきの影もさきさきの影もさきさきの  
 沖のさきさきの影もさきさきの影もさきさきの影もさきさきの  
 まは障子か明を雄島を嶋のさきさきの影もさきさきの影もさきさきの  
 洲崎をさきさきの影もさきさきの影もさきさきの影もさきさきの



波のうらみあるを洲を。怪つるををて上人日より  
 作らるるをのわらうううんあ城まをむくひく  
 本を物雄ののそらぬみほくを信んて見る  
 廿六日午のまのまにやどめてつる足あくはるまの  
 やうい。みやどれ多うんあ菜。船あま入津で津に  
 高松のゆふ木をゆで虹のんはのまを液してまの  
 しあゆのしとわらうまふ。媽神のる雞栖はは(文字)  
 ちの(ま) 糠部乃郡田名部の縣おすの。徳玄まの(ま)  
 秀琳のまうう分類さ(ま)を(ま)の神を(ま)の  
 うまゆ(ま)の(ま)と藤枝(ま)の(ま)と(ま)つ(ま)と  
 ち(ま)の(ま)の(ま)世(ま)の(ま)つ(ま)の(ま)の(ま)

一てしやちきまき女すたは船夕麻草さるる海は  
 細きもき鮒とわを浦へすさまの島人鮒のあさ  
 出はるるんらあつうのち女むら島小辨財天の祠と  
 建つていふさしはつちものまがはのりくちを  
 うはまじ神とちあはして媵神といふは  
 その功あはる媵らうるを神といふは  
 中へひつてさうとと折居明神とあはる  
 浦の子らあは堂と中へさうと折居のちとさ  
 るあはんちぶちあやとさういふはさうが  
 いさういふちびさうさういふは  
 雨つあはらほとちさうとあはらほとさうと  
 ちう控てさういふさうと市中へ九艘川と神は

の川あり北水上のちさうとあはらほの九の科のあは本を伐出  
 ちいれそ川のちさうとあはらほのちさうとあはらほのちさうと  
 さうとあはらほのちさうとあはらほのちさうとあはらほのちさうと  
 山寺かといひ諦観和尚とあはらほのちさうとあはらほのちさうと  
 旅のちさうとあはらほのちさうとあはらほのちさうとあはらほのちさうと  
 ちさうとあはらほのちさうとあはらほのちさうとあはらほのちさうと

世七日いそ岡あはらほのちさうとあはらほのちさうとあはらほのちさうと  
 波るあはらほのちさうとあはらほのちさうとあはらほのちさうとあはらほのちさうと  
 ちさうとあはらほのちさうとあはらほのちさうとあはらほのちさうとあはらほのちさうと  
 ちさうとあはらほのちさうとあはらほのちさうとあはらほのちさうとあはらほのちさうと



かんたのうのう二里ふしきて。島かづまうりわきの  
 とろくふちりて沖のうのりあま。あまさんとせりる  
 かり此島よのりんま米。鍋火うちまききめくは  
 風かまゆれきるふちまの。此島船もせりる  
 よき洋是まちて命しきいひ。ひつていんかひ  
 さたのてまのまら。おろそん島かづまうりわきの  
 うちあさるる群島の羽まにむり。増え洋るさ。破の  
 鯨もすらばあつてう。木の根草の根とあま  
 多の島よのりんま。ひりてまうり。うのり  
 中。いんかづま。あれわらまの山。あまい  
 ちつて。海。いんかづま。蛇。あまい。すま。いんかづま  
 もふいんかづま。蛇の多。いんかづま。蛇。あまい

かんたのうの島。船つて。あまい。あまい。あまい  
 多の島。あまい。あまい。あまい。あまい。あまい  
 此島よのりんま。あまい。あまい。あまい。あまい  
 山。あまい。あまい。あまい。あまい。あまい  
 大島。あまい。あまい。あまい。あまい。あまい  
 めろ。あまい。あまい。あまい。あまい。あまい  
 さ。あまい。あまい。あまい。あまい。あまい  
 お。あまい。あまい。あまい。あまい。あまい  
 あ。あまい。あまい。あまい。あまい。あまい  
 い。あまい。あまい。あまい。あまい。あまい  
 う。あまい。あまい。あまい。あまい。あまい



江差の港より  
 三つ巴迄  
 の本りて  
 真尻の島へ  
 下りし  
 甲 山背泊  
 乙 傳兵衛間  
 丙 鍋 弦  
 丁 阿茶茶為  
 のまね

つばきを詠ふ。うぬをみよ。島の人をよむ。波の  
 入らぬ。あつた。小舟のあまう。あまう。  
 潮風波おこる。あまう。正學見院。小舟。  
 泉郎ちわん。たふ。正學見院。小舟。  
 廿八日。あまう。あまう。あまう。あまう。  
 つま。津島。あまう。あまう。あまう。あまう。  
 い。津島。あまう。あまう。あまう。あまう。  
 蚊柱。あまう。あまう。あまう。あまう。  
 多。あまう。あまう。あまう。あまう。  
 沖つ風吹ふ。あまう。あまう。あまう。あまう。  
 う。あまう。あまう。あまう。あまう。  
 さ。あまう。あまう。あまう。あまう。

みちいそとれいそとて涙ふ多る小舟よ舟まのし  
 昔より海のかもともともこのあまのしは  
 けつく友つひ相沼といふ浦よ泊りてめんとし  
 うらやめりしんうの海白府の泉郎そ阿部とれいすの  
 鯉の魚わきまといふの浦よいそとて甘小屋まおらう  
 出りてよまといふたぐとて足後いそとてぬ丸屋形の  
 うちまいそとていそとてあは居かといふ三の浦のあは  
 物くつ了陸小屋の窓よりとていそとて灯の光やと  
 けいそとていそとて志すといふ火のけいそとていそと  
 ともいそとていそとて大口魚の肉とていそとていそと  
 ましたつといそとて魚屋とていそとていそとていそと  
 といそとていそとていそとていそとていそとていそと





廿九日...明...海の面...  
 よま風の吹...  
 帆...  
 ...  
 四の...  
 ...

あらふ浦と云はる。和令<sup>シヤモ</sup>蝦夷のくちをさす<sup>イナチ</sup>以南遠  
 ぶた<sup>クサ</sup>とも<sup>クサ</sup>あつた<sup>クサ</sup>を伐<sup>クサ</sup>枝<sup>クサ</sup>か<sup>クサ</sup>り<sup>クサ</sup>岩の出崎<sup>クサ</sup>  
 おい<sup>クサ</sup>ま<sup>クサ</sup>。為<sup>クサ</sup>那<sup>クサ</sup>半<sup>クサ</sup>と<sup>クサ</sup>を<sup>クサ</sup>麻<sup>クサ</sup>草<sup>クサ</sup>の<sup>クサ</sup>糸<sup>クサ</sup>を<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>  
 や<sup>クサ</sup>ま<sup>クサ</sup>で<sup>クサ</sup>い<sup>クサ</sup>る<sup>クサ</sup>。鮮<sup>クサ</sup>の<sup>クサ</sup>魚<sup>クサ</sup>多<sup>クサ</sup>う<sup>クサ</sup>ん<sup>クサ</sup>て<sup>クサ</sup>を<sup>クサ</sup>い<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>  
 神<sup>クサ</sup>の<sup>クサ</sup>い<sup>クサ</sup>り<sup>クサ</sup>て<sup>クサ</sup>夷<sup>クサ</sup>人<sup>クサ</sup>の<sup>クサ</sup>い<sup>クサ</sup>り<sup>クサ</sup>を<sup>クサ</sup>い<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>向<sup>クサ</sup>ら  
 と<sup>クサ</sup>あ<sup>クサ</sup>ん<sup>クサ</sup>福<sup>クサ</sup>山<sup>クサ</sup>と<sup>クサ</sup>す<sup>クサ</sup>る。杉<sup>クサ</sup>田<sup>クサ</sup>暗<sup>クサ</sup>安<sup>クサ</sup>が<sup>クサ</sup>ア<sup>クサ</sup>井<sup>クサ</sup>ノ<sup>クサ</sup>詞<sup>クサ</sup>を<sup>クサ</sup>タ<sup>クサ</sup>北<sup>クサ</sup>  
 バ<sup>クサ</sup>年<sup>クサ</sup>ア<sup>クサ</sup>ナ<sup>クサ</sup>キ<sup>クサ</sup>子<sup>クサ</sup>。ヘ<sup>クサ</sup>ロ<sup>クサ</sup>キ<sup>クサ</sup>。イ<sup>クサ</sup>ロ<sup>クサ</sup>子<sup>クサ</sup>。井<sup>クサ</sup>ナ<sup>クサ</sup>シ<sup>クサ</sup>リ<sup>クサ</sup>。シ<sup>クサ</sup>井<sup>クサ</sup>ニ<sup>クサ</sup>モ<sup>クサ</sup>ア<sup>クサ</sup>井<sup>クサ</sup>  
 カ<sup>クサ</sup>モ<sup>クサ</sup>井<sup>クサ</sup>レ<sup>クサ</sup>シ<sup>クサ</sup>カ<sup>クサ</sup>イ<sup>クサ</sup>。と<sup>クサ</sup>あ<sup>クサ</sup>ん<sup>クサ</sup>ふ<sup>クサ</sup>ん<sup>クサ</sup>と<sup>クサ</sup>い<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>あ<sup>クサ</sup>の<sup>クサ</sup>い<sup>クサ</sup>り<sup>クサ</sup>  
 とい<sup>クサ</sup>。蝦<sup>クサ</sup>夷<sup>クサ</sup>の<sup>クサ</sup>地<sup>クサ</sup>の<sup>クサ</sup>い<sup>クサ</sup>り<sup>クサ</sup>を<sup>クサ</sup>い<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>運<sup>クサ</sup>上<sup>クサ</sup>屋<sup>クサ</sup>と<sup>クサ</sup>  
 う<sup>クサ</sup>の<sup>クサ</sup>い<sup>クサ</sup>り<sup>クサ</sup>を<sup>クサ</sup>い<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>の<sup>クサ</sup>屋<sup>クサ</sup>形<sup>クサ</sup>と<sup>クサ</sup>す<sup>クサ</sup>る  
 と<sup>クサ</sup>あ<sup>クサ</sup>ん<sup>クサ</sup>の<sup>クサ</sup>い<sup>クサ</sup>り<sup>クサ</sup>を<sup>クサ</sup>い<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>ひ<sup>クサ</sup>ア<sup>クサ</sup>井<sup>クサ</sup>ノ<sup>クサ</sup>詞<sup>クサ</sup>を<sup>クサ</sup>タ<sup>クサ</sup>北<sup>クサ</sup>  
 とい<sup>クサ</sup>。



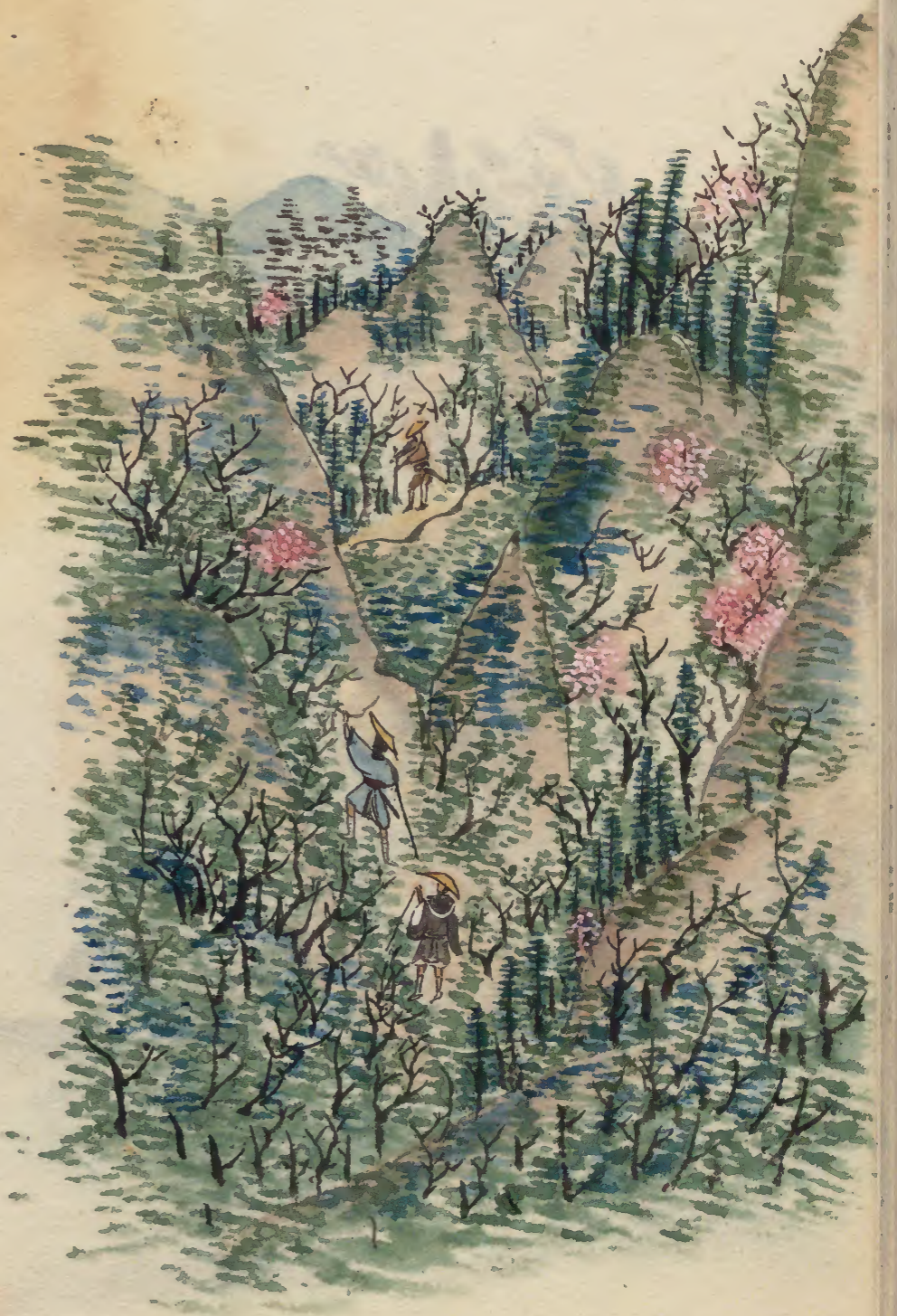


蝦夷人の立寄る所の末もみぢりしりし  
 法代乃うーさき。それら軒のあふ庫し。まき辞ふ  
 多加久良と。るは不根つきあて。棚のやに横木を  
 ろし。金。ま。か。わ。も。毎。を。ぬ。き。つ。ひ。だ。ち。し。た。は  
 屋をつく。あ。く。栗。稗。あ。ら。ま。ん。さ。け。る。の。か。ま。を  
 こ。あ。く。と。あ。ん。や。じ。の。く。は。ま。に。そ。り。り。か。へ。か。け  
 ももの。か。ま。う。て。虎杖の茎の。一。ち。半。を。を。投。や。り。  
 ち。ん。も。う。の。志。け。し。ん。を。前。と。り。ふ。と。う。あ。は。せ。ひ。ま。に  
 や。う。て。お。ろ。す。な。さ。き。を。さ。ら。づ。ら。れ。は。は。き。な。さ。き。を。さ。ら。づ。ら。れ。  
 わ。さ。と。ん。あ。ひ。せ。く。な。ら。め。ま。ん。を。波。那。離。つ。き  
 と。ま。い。ひ。な。も。や。あ。ら。ぬ。の。さ。ま。し。う。く。鹿。の。う。家  
 き。あ。ら。へ。か。け。ぬ。ら。う。ら。う。あ。ら。ぬ。く。草。さ。ら。い。ぬ









花の枝も波やの舟の舟のふみれりあはれ  
 ぬれぬまきと二里とりのあちとくやまの海ふその  
 山の麓のつきぬれ運上屋をうあはれ今あはれもやま  
 とくで秋をほしひ山をむしつひさやみさうぬれさうに  
 工はやく山あはれ画のまわして夏本まのやまはれは  
 すまを國のやまひらうあはれあはれむすれもあはれ  
 くる魚とさうくは梅ちりのうあはれあはれ根のち雪も  
 きんが早蕨のりあ本あちひらの山をひもあ  
 ちぬ梢そむきあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
 あはれあはれ山面あはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
 とくあはれ山牡丹とあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
 うあはれあはれ白きも紫もあはれあはれあはれあはれあはれ





あまののくにのいづれにやとてあはれをちりてにぬぐはれん  
 いてやあまのくにのいづれにやとてあはれをちりてにぬぐはれん  
 まはせり太田余のあまのくにのいづれにやとてあはれをちりてにぬぐはれん  
 浦の名をいふとてあまのくにのいづれにやとてあはれをちりてにぬぐはれん  
 して砂をいふとてあまのくにのいづれにやとてあはれをちりてにぬぐはれん  
 ちりてとてあまのくにのいづれにやとてあはれをちりてにぬぐはれん  
 きをせ給ふ淡海の山の圓空とてあまのくにのいづれにやとてあはれをちりてにぬぐはれん  
 のいづれにやとてあまのくにのいづれにやとてあはれをちりてにぬぐはれん  
 ちりてとてあまのくにのいづれにやとてあはれをちりてにぬぐはれん  
 ついに流連してあまのくにのいづれにやとてあはれをちりてにぬぐはれん  
 きの木水白木のまゝ小鍋。木柵。大なるもろもろ。山石の  
 おもひのき。夜よりの人れとてあまのくにのいづれにやとてあはれをちりてにぬぐはれん

少ふいふまじりて又上とつひて又岩のうづらありはれ  
も圓空が佛のみにあらうとてあつたむとむむむ  
昔のそ、あつたむとむむとてあつたむとむむむ  
まゐりてあつたむとむむとてあつたむとむむむ  
あつたむとむむとてあつたむとむむむ

雲のうづらこのうづらとてあつたむとむむむ  
あつたむとむむとてあつたむとむむむ  
あつたむとむむとてあつたむとむむむ  
あつたむとむむとてあつたむとむむむ  
あつたむとむむとてあつたむとむむむ

あつたむとむむとてあつたむとむむむ

餅とてあつたむとむむとてあつたむとむむむ  
あつたむとむむとてあつたむとむむむ  
あつたむとむむとてあつたむとむむむ  
あつたむとむむとてあつたむとむむむ  
あつたむとむむとてあつたむとむむむ

前とてあつたむとむむとてあつたむとむむむ  
あつたむとむむとてあつたむとむむむ  
あつたむとむむとてあつたむとむむむ  
あつたむとむむとてあつたむとむむむ  
あつたむとむむとてあつたむとむむむ

呼ぶよ... 五月朔日... 樵とるや... 草の根... 仙人の...

和入ウチヨク  
 コタ...

象山貝母...

カビ...

不毛地... 宇多... 二日... 象山貝母... 筆者...



ちり 提ツふりウかチりチむヒのルて蓋を基せウる左  
 把フの者鬚シク上カと者かチりウの神鬼カとねつミ  
 イクハシウノらんてまみきあらん度者カがしく扱と  
 らんて鬚かれあらんのて此を子の酒  
 價ノ賣ヲもあらんやとあらんじゆのさるあらん  
 さらん時うぬらんシキさらんひわちてそれ  
 解ガと解ふたにえいととととととととととと  
 いまの頃からと女といふシキヤとといふたらん山  
 わらんたらんあらんまいひ

ア井ノヤタキモロヲシマケタニイヤノニ  
 ノチケリアンベレタルヌリカニ  
 ア井ノ蝦夷ヤタキモロ山ヲシマケタ物の法









八つ橋の酒の味は  
 一夜をたぬ夜も  
 中へ其漁舟の事  
 魚場へしと  
 海へ浦の山  
 辞あり鹿の角  
 鱈の夏の蛇と  
 山の枝と  
 もかたを腰に  
 あまのいし

あまのいし酒の味は  
 とるし酒の味は  
 かり埋めし  
 八つ橋の酒の味は  
 八つ橋の酒の味は  
 八つ橋の酒の味は  
 八つ橋の酒の味は  
 八つ橋の酒の味は  
 八つ橋の酒の味は  
 八つ橋の酒の味は  
 八つ橋の酒の味は  
 八つ橋の酒の味は  
 八つ橋の酒の味は  
 八つ橋の酒の味は  
 八つ橋の酒の味は  
 八つ橋の酒の味は  
 八つ橋の酒の味は

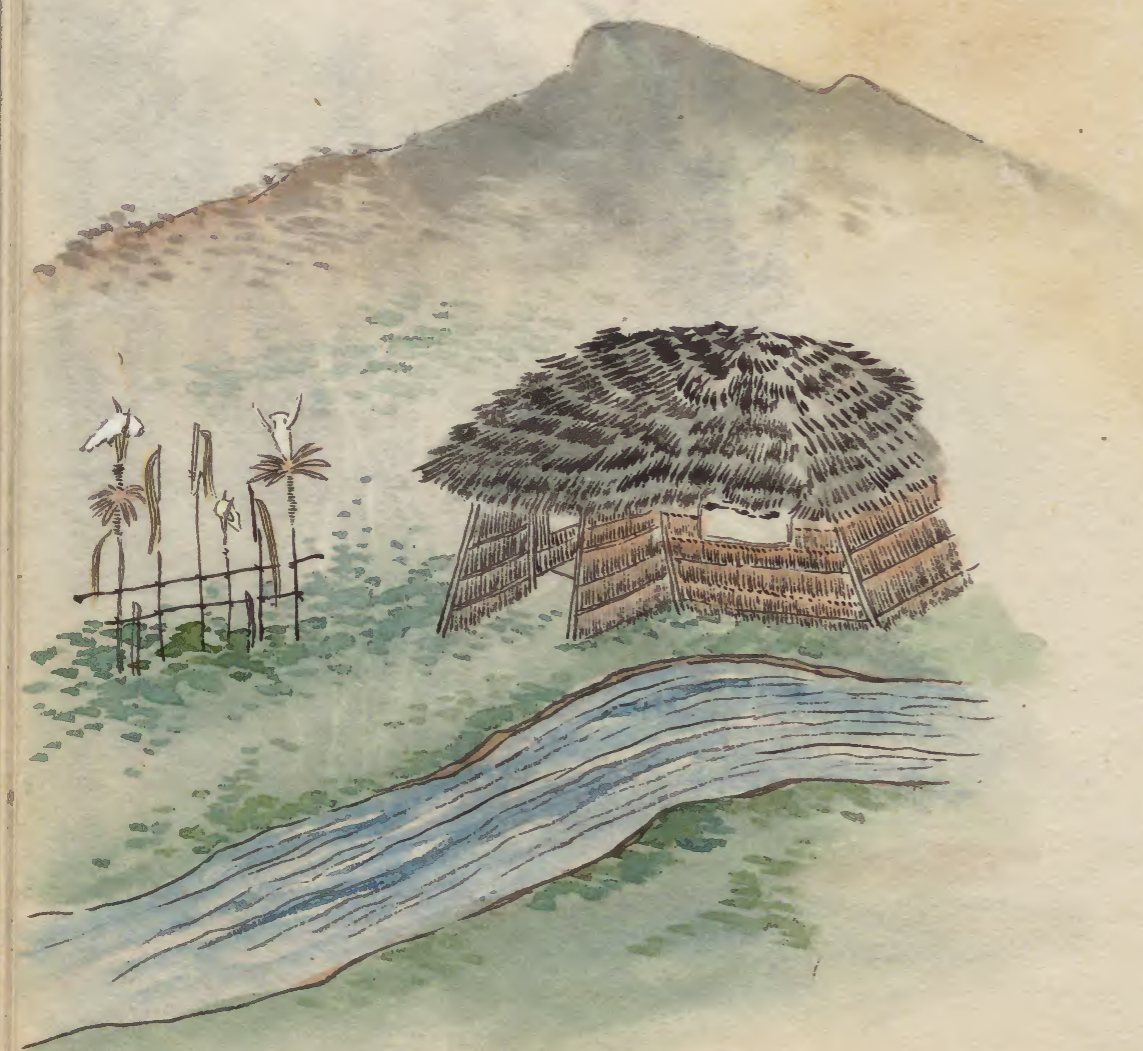
三月三日と云ふ海あじうと云ふは若くはウツナリ  
と云ふ山奥の湯泉なりその湯をひきしめれば花を  
おぼしめすなりきなきもたふす大川の蝦夷  
栖居る所と云ふつと云ふ木賊糸と云ふみち  
と云ふは花さうにありぬ一木をわらうは  
つと云ふの二解ありありをみそ中にてはてす  
たふすもわらうにたふす杖川下にちや河よ  
はききうちてたぬをわらうと云ふも  
山の雪と云ふはあつたを色と云ふは  
つと云ふは二里の過ぎいづてはききぬ  
大谷のそこを龍川が流るる浦うて涌つ湯  
廿二の所の巖ふらうて流るる所なり

神人言さく  
いふに

まふの湯と云ふは本を伐りおろすも  
ゆりの湯と云ふは花をひきしめれば花を  
おぼしめすなりきなきもたふす大川の蝦夷  
栖居る所と云ふつと云ふ木賊糸と云ふみち  
と云ふは花さうにありぬ一木をわらうは  
つと云ふの二解ありありをみそ中にてはてす  
たふすもわらうにたふす杖川下にちや河よ  
はききうちてたぬをわらうと云ふも  
山の雪と云ふはあつたを色と云ふは  
つと云ふは二里の過ぎいづてはききぬ  
大谷のそこを龍川が流るる浦うて涌つ湯  
廿二の所の巖ふらうて流るる所なり

とんちん大木  
三尺のうさげ  
あまふ

やんち大石をまじり花をとりとてやうやう小口を  
さあそきまじり日れぬ湯あきまおらうて本をさく  
つたをさき捨てるあう八さのくちちあてうてゆぬ  
大いしとちりあてりあうゆい豊のあうあふさぎ  
やんちれう瀧あきのまじりもはうゆいゆいゆい  
あてりておやあまじりまじりまじりまじり  
姑獲鳥うらぐし笛のあまをあまはひまじりまじり  
おん山のおとらうりう流まうりうまきまき  
鶴うのうまきの夜ののすてあふ









あり毗沙門天王の堂ありはらへるふ在は。ま名のすめみ  
 さまのりまづる似たれを浦の名をよそを雲をよそを人  
 としよのりれ。蝦夷まを染のそをまをクマウシてま井  
 のの言とをんは。此浦の寺ありのりよのちなる夕  
 さうし。水雞の羽は積ふ鳴き。老女が耳かかに  
 かんてり。つぎつぎを。ひらひらのさき。あまうま  
 びく谷マチニドリ鶏うると。あまうまうまてあまう  
 破はよるのさき。あまうまの戸を叩く。ひらひらの  
 あまうま。あまうま。あまうま。あまうま。あまうま。あまうま。  
 八日てあまうま。あまうま。あまうま。あまうま。あまうま。あまうま。  
 此をわく。あまうま。あまうま。あまうま。あまうま。あまうま。あまうま。  
 常陸國多賀郡よまの。實山上人よま。あまうま。あまうま。あまうま。あまうま。あまうま。あまうま。





のふりてはのちの法幢寺の六世小庵の相巖  
峯樹和尚と云ふ文ありしけり。其の事ありし  
今もいふも山城の法鏡とて其の補なるうざれて  
おける事しと建論にて多し給ひてす。さる先  
と云ふ。頼つらむれは。きつては。つては。は  
も。峯樹と云ふは。われあはるふ。す。い。ま。は。は  
き。つ。れ。な。し。い。の。ち。の。ふ。か。も。あ。い。わ。あ。め。は。し  
つ。も。も。う。う。て。也。み。さ。る。う。ん。と。り。ぬ。は。さ。り  
さ。ら。う。に。う。て。う。あ。れ。給。う。の。頭。と。福。山。と。き。は  
ゆ。き。と。い。へ。ま。し。よ。み。ち。遠。ら。ん。て。江。差。江。の。寺。は  
一。夜。と。ま。う。て。い。は。な。ら。ん。と。い。ひ。お。き。あ。り。む。と。い  
ふ。火。の。い。そ。と。北。寺。の。さ。う。ら。う。や。あ。さ。り。う。み

志くありしを。さうらうのあめんめつ。のさ。は。い。や  
い。な。あ。る。え。ん。と。か。ら。共。産。を。出。し。ま。る。み。ち。の。か  
ま。藍。草。ぬ。る。屋。の。さ。う。ら。う。山。梨。の。花。う。ら。ひ  
う。ら。ひ。い。の。い。し。り。う。た。は。と。  
堂。の。ゆ。の。ほ。ま。も。わ。い。し。れ。り。わ。は。は。は。は。は。花。の  
お。ま。り。し。山。信。と。う。れ。る。李。の。さ。う。ら。う。は。ち。う。ら。い。ん  
虎。杖。の。高。垣。と。う。ら。い。し。れ。あ。り。  
い。ま。は。う。と。あ。る。垣。の。む。ら。や。あ。ま。の。い。と。あ。ら。も。  
タ。ク。レ。の。さ。う。ら。う。れ。て。や。あ。り。  
九。日。あ。り。あ。ま。の。う。ら。い。れ。ど。あ。つ。み。く。て。タ。マ。ウ。シ。と。い。ふ。  
ヒ。ラ。タ。十。井。と。い。ふ。あ。り。名。の。う。ら。う。ら。う。い。は。の。小。川。と。橋。の  
わ。り。相。泊。と。い。ふ。い。ま。小。川。あ。り。の。お。さ。う。ら。う。ゆ。り。と。い。ふ。



久しき増りてわんとして此もあつ雄らのやう  
 ぶらわうれうせきあるやうなうてそのふつとさ  
 川もわんやうなふあきんられてうてわん  
 此山ぞの温泉ふり人あつゆう人あつケニウチに流  
 三ばものねえとひきあつてうてうて此後邊の  
 昆布の帯のうくゆえにうてわんあつあつ  
 とわんあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 せんうのうてあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 多ほヒラダナ井のあつあつあつあつあつあつあつ  
 かのケニウチにうてあつあつあつあつあつあつあつ  
 群集さうでうてあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 此あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ



かつらぎのやにわがへははるかにあひぬまうんれに此  
 昆布のふれんそきせしひのちいきまにあのりり  
 さるるあしんさあれあめあれあしやあし相沼  
 の浦邊で、ズツの小川わす。泊川とて改やうまはふ  
 かのうくうとてとざりく。大島の鳴るあまつ  
 遅れあのうらな。そののせふるとあまつ電の  
 ちめき。神あつわあしあまの桑原とまうい  
 るあまう。沖は松あやあまの波ああれあ  
 らあさうて梅のあれあるとくうなり。

山にのみまもあはれあまのし潮あまうう  
 五月のあれあまのあまの杉村あふうとてあまの  
 明やあまううつあまのあまのあまのあまのあまの



上りてまゝにわたりぬ尾をたづなふ月をたづなふ  
 のひのまはるる時をたづなふれはるるをたづなふ夜もす  
 るとぬれを鶏の志もかき  
 ありひもほろろとつらみ後とまもむははるる  
 夕乃夜そくせかきくきみみ  
 十日はゆちとととあのかうけとたわなふ小川の  
 ぬりたてをそそむむ鳥のちりり花の枝をたづ  
 んたうとあふ風をたづなふれはるる者もたづ  
 ありきとつらみ草の志もたづなふははるる  
 ありきとつらみ草の志もたづなふははるる  
 ありきとつらみ草の志もたづなふははるる  
 ありきとつらみ草の志もたづなふははるる



四十九



四十九枚

